

## 「伊仙中学校の文化財探訪の取組」

### 1 学校名

伊仙町立伊仙中学校

### 2 学年・人数

3年生（計31人）

### 3 日時・場所

#### (1) 学習会等の日時・場所

令和5年9月22日 文化財ウォッチング

（面縄貝塚，徳之島カムイヤキ陶器窯跡他）

令和5年9月～10月 学習会（事後学習・発表資料作成：総合学習）

#### (2) 発表の日時・場所

令和5年10月20日（金）

伊仙町立伊仙中学校「令和5年度文化祭」

### 4 活用に取り組んでいる史跡の名称・時代・特徴について

#### (1) 名称・時代

- ・ 面縄貝塚（おもなわかいづか）：縄文時代
- ・ 徳之島カムイヤキ陶器窯跡（とくのしまかむいやきとうきかまあと）  
平安時代後期～鎌倉時代

#### (2) 特徴

- ・ 面縄貝塚

徳之島最南端の海岸砂丘上及び石灰岩地帯に立地する，縄文時代後期を中心とした集落跡。1928年に発見されて以降，九州南部や沖縄地域を繋ぐ土器群が出土した。奄美・沖縄地域の縄文時代における海岸砂丘上及び石灰岩地帯に立地する集落遺跡の典型であり，九州島と沖縄地域との間に位置することから，両者の関係性の解明にとって重要な存在となっている。

- ・ 徳之島カムイヤキ陶器窯跡

11世紀後半から14世紀前半頃（平安時代の終わりから鎌倉時代）に陶器が生産された窯跡。1983年に発見された。発見地の字名「亀焼」（地元の発音でカムイヤキ）にちなんで名付けられた。窯跡は東西約1.5km，南北約800mの範囲に，7支群に分かれて分布し全体で100基ほど存在する。窯体は平面形が「いちじく」状を呈する地下式窖窯である。ここで生産された焼き物は，鹿児島県本土の一部，トカラ列島，奄美諸島，沖縄諸島，先島諸島から出土しているが，これは距離にして約1200km以上あり，生産と流通の在り方を知る上で重要である。

## 5 保存会や地域との連携の具体

総合的な学習の時間を利用して、校外学習として文化財探訪の取組を実施した。伊仙町教育委員会社会教育課の方に案内・解説をしていただきながら、各史跡を巡った。その後、生徒は調べてきたことを基に、更に資料を調べるなどして発表資料を作成した。

## 6 活用の取組の工夫した点

グループごとにまとめる史跡を決めて、イラストや実際に撮影してきた写真等を活用しながら、わかりやすくまとめるよう心掛けた。

## 7 取組の様子（研究発表、創作劇等）



## 8 参加児童生徒・保護者・保存会・教職員等の感想・意見

### 【生徒】

- ・ 面縄貝塚に行ってみて、昔の人たちの骨が割れずにきれいに保管されていてすごいなと思いました。また、火葬が始まったのは約100年前からだと知り、意外と最近なんだなと思いました。徳之島の自然のことはよく知っていたけれど、歴史のことはあまり知らなかったのので、今回、昔の人たちがどのような生活をしてきたのか知れてよかったです。
- ・ 私たちが行ったところは、昔お墓だと聞きました。また、「私たちが立っていた場所にも人骨が埋まっているかもしれないよ」と言われて、とてもびっくりしました。昔のものがこんなにもきれいに残っているのがすごいなと思いました。
- ・ 面縄貝塚に向かう途中はとても暑かったけれど、着いたら少し涼しくなったので驚きました。奥のところに行くと地面に人のものらしき骨が落ちていたり、お墓のような物の後ろに人間の頭蓋骨がたくさん積まれていたりしてびっくりしました。いろんなところに行ってみて、昔の人たちがどのような生活をしてきたかなど、たくさんを知ることができてよかったです。
- ・ カムイヤキの森は急な坂が多く上り下りがきつくて大変でしたが、上ったときは達成感があり、楽しかったです。画像や粘土で作った模型は見たことがありましたが、本物のカムイヤキは初めて見ました。私が見たのは失敗した物や破片だけだったので、しっかりとした形のものを見てみたいです。